

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	吾人ガ本領ノ一斑：雑録
Author(s)	中山，文次郎
Citation	龍南會雜誌， 6： 2 2 - 2 6
Issue date	1892-04-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/3808">http://hdl.handle.net/2298/3808</a>
Right	

るを知るに足らん。

孔子曰く、質勝文則野。文勝質則史。文質彬彬々。然後君子。と夫れ國家文學科學の相離る可らざるは、尙ほ一個人に文質の相離るべからざるが如し。若し唯文學あつて科學なければ、國輒ち振はず。科學あつて文學なければ、野卑乍らも其國尙ほ頽靡を免る。一國は猶ほ一人の如し、文質彬彬々たるを尊ぶ。獨り科學の盛なるのみならず、亦文學の隆盛なるを尊ぶ。吾人は敢て天下を擧げて、科學に就き文學を避けよと云はず、又文學に就き科學を避けよと云はず。唯理學を盛にし、併せて又た文學を盛にすべしと云ふ而已。

## 雜 錄

### 吾人ガ本領ノ一斑

中山文次郎

凡ソ社會ノ開拓者ヲ以テ自ラ任ズルモノハ決シテ人爲ノ模型ニ入ル可ラズ必ズヤ超然社會水平ノ上ニ立チ眞理ヲ探リ天則ヲ尋テ其眞理天則ヲ遵奉セザル可ラザルナリ夫レ自ラ模型ヲ作ランガ爲ニ人爲ノ模型ヲ參考スルハ可ナリ然レ此注意ナクシテ其模型ニ入ラバ其弊ヤ遂ニ模型以外ニ脱スル能ハザルニ至ル此ノ如クバ世ノ進歩ナルモノハ果シテ得ラル可キカ抑モ進歩ハ活動ニ因ル活動ナケレバ進歩ナシ過去ノ模型豈ニ必シモ將來ノ模型トス可ンヤ何トナレバ社會ハ常ニ活動ス故ニ模型モ亦活動ニ從テ進歩セザル可ラザレバナリ一ノ場所ニ發生シタル教豈ニ必シ

モ言ノ場所ノ教トス可シヤ何トナレバーノ場所ト他ノ場所トハ其事情ヲ異ニス從テ其教モ亦其事情ヲ異ニス可ケレバナリ基督教が佛教ト衝突シ佛教が儒教ト楊墨ト衝突ス此ノ如ク其他幾多ノ教ヲ集メ來リテ錯列(Permutation)ヲ作ルルハ實ニ巨多ノ教ト教則チ人爲ノ摸型人爲ノ摸型トノ間ノ衝突ヲ得ルナリ是レ教が必シモ眞理ヲ經トシ天則ヲ緯トシタルモノニ非ズシテ只日時ト場所トニ關係シテ發生シタル摸型ナル証據ナリ斯ノ如クバ教ナルモノハ吾人が以テ頼トナスニ足ラザルモノナリ然ラバ則チ吾々開拓者ノ任チ有スルモノハ千古ニ通ジテ限ビス萬世ニ亘リテ朽チザル眞理ト天則トヲ友トセザル可ラズカノ耶蘇、佛、孔、孟、等ノ奴隸トナルハ決シテ吾々ガ快トス可ラザル所ナリ其教チ無二ノ格言トシテ遵奉スルハ決シテ吾々ガ快トス可ラザル所ナリ斯ク吾人ハ眞理ヲ怙ミ天則ヲ恃ム何ソ漠然タル神(God)ヲ信ズルヲ要セン何ソ佛ヲ信ズルヲ要セザ否チ信ゼント欲スルモ吾人が眞理天則ヲ遵奉スルノ本領ハ之ヲ許サザルナリ吾人ハ眞理ヲ信ズ故ニ安心スルコトヲ得ルナリ天則ヲ信ズ故ニ立命ノ地ニ立ツコトヲ得ルナリ神ヲ信シ佛ヲ信ズルハ是レ眞理天則ヲ知ラザルモノ、依テ以テ安心立命ノ地トナス所タリ加藤弘之氏天則ニ論ジテ曰ク佛教ハ下等社會ニ向テ必用ナリ中等以上ノ社會ニ向テ必シモ必用ノモノニ非ズト實ニ然リカノ耶蘇教ト云ヒ佛教ト云ヒ皆徒ニ信仰ノ二字ヲ以テ人ヲ誘ヒ感情ノ二字ヲ以テ人ヲ支配シ不可思議ノ事ハ皆之ヲ神ノ意ニ歸スカノ Fiction ヲ引キ揚ゲテ管中ニ水ノ浸入スルヲ觀ルヤ以太利ノ宗教家ハ之ヲ神ニ歸シテ曰ク神ハ眞空ヲ嫌フ故ニ水ヲ以テ管中ニ充タスナリト而シテ管

中ノ水凡ソ三十尺ニ達セシヨリ以上ニ昇ラザルヲ觀ルヤ又曰ク神ハ是レヨリ以上ノ真空ハ嫌ハ  
 ザルナリトカノ有名ナ物理學者ガリレオ氏ハ能ク管中ニ水ノ昇ル所以及ヒ其昇ルニ一定ノ度ア  
 ルノ理ヲ知レリ然レニ當時宗教ノ勢甚ダ盛ナリシガ爲ニ氏ハ其說ヲ公ニスルヲ憚カレリ然レニ  
 氏ガ當時ノ所說ニ反對シテ熱心ニ地球ノ圓キコト地球ノ自轉スルコトヲ主張スヤ氏ハ遂ニ神  
 ノ意ニ逆フモノナリトシテ牢獄ニ投ゼラレ哀ニモ一命ヲ呻吟ノ内ニ終ルニ至レリソレ眞理ハ千  
 古ヲ貫キ萬世ニ亘リテ朽チズ宗教ノ力如何ニ強大ナリト雖モ何ゾ之ニ抗ズルヲ得ン地球ノ圓キ  
 コト地球ノ自轉スルコトハ既ニ全世界ニ一人ノ疑フモノナキニ至レリ是レ眞理天則ノ尊ム可ク  
 宗教ノ信ズルニ足ラザル例証ナリ吾人ガリレオヲ同志トスルモノ何ゾ無暗ニ信仰ニ惑溺シ感情  
 ニ支配サレテ可ナザンヤ徒ニ信仰ニ迷ハサレ感情ニ惑ハサレバ眞理ノ光ハ何ノ時カ顯レン  
 眞理ハ一二ツナシ惟ダ一ノミ故ニ反對テ言葉ハ只ダ眞理ノ明ナラザル迄ノ時限内ニ用非ラル、  
 モノニシテ眞理ノ明ナルニ及ンデハ此社會ヨリ隱遁セザル可ラザルモノナリ西村茂樹氏哲學會  
 雜誌ニ示シテ曰ク日本ノ政論ハ一步一步互ニ相近ヅク此勢ヲ以テ推スハ早晚其論ノ一ツニ合  
 スルトアラント之ヲ例フルニ宛モ弦ノ振動ガ強ヨリ弱ニ弱ヨリ靜止ニ歸スルガ如キガ故ニ吾人  
 ハ政黨間ノ議論ヲハ眞理討究ノ討論會トシテ大ニ喜ブモノナリ而シテ吾人ノ眼中ニハ眞理アルノ  
 ミ天則アルノミ甲黨ナク乙黨ナシ黨派心アルヲ要セザルナリ黨派心アル可ラザルナリ若シ異日  
 社會ニ出デ政治社會ノ一微分子タルヲ得ルノ境遇ニ接スルコトモアラバ吾人ハ過去政黨ノ歴史

ヲ參考シテ一種卓越ノ政黨ヲ作り出スヲ以テ自ラ任セザル可ラザルモノト信スルナリ  
終リニ臨ミ少シク辨セザル可ラザルモノアリ吾人ハ大体ノ本領ヲ述ベテ眞理ニ遵ヒ天則ヲ奉ズ  
可キヲ云ヘリ然レドモ吾人ハ日本ノ人間トシテ當世記ノ人間トシテ適合(Adaptation)ノ必用ヲ  
知ルモノナリ寒國ノ兔ハ其毛白ク青葉ニ棲ム虫ハ其色青シ其他總テノ動物其居ル所ノ周圍ト大  
ニ其色ノ類似スルハ生物學者ガ吾人ニ教ユル所ナリ所謂保護色ナルモノニシテ動物ノ生存上免  
ル可ラザルモノナリ若シ寒國ノ兔ニシテ白以外ノ毛ヲ有センカヨリ強キ動物ノ搏撃ヲ免レザ  
ルナリ若シ青葉上ノ虫ニシテ青以外ノ色ヲ有センカ是レ亦ヨリ強キ動物ノ餌トナルヲ免カレザ  
ルナリ夫レ列國今日ノ有様ハ宛カモ五色色分ケタル萬國圖ノ如ク各其特色ヲ有ス從テ其國體、  
宗教、政治、法律、文學モ亦其色ヲ異ニス譬ヘバ英ニ黃ノ國體アレバ佛ニ白ノ國體アリ魯ニ黑ノ  
國體アレバ日本ニ赤ノ國體アリ又立憲協治、共和、君主獨裁、英法律、佛法律、獨法律、佛教、耶蘇  
教、回教、國文學、英文學、漢文學、獨乙文學等悉ク是レ各國ノ特色ト同一ノ特色ヲ有スルモノナ  
リ此ノ如ク其國ノ特色ト同一ノ特色ヲ有スル制度文物ヲ有スルハ各國ノ生存上必用ナルモノニ  
シテ若シ猥リニ其特色以外ノモノヲ採ランカ是レ生物ニシテ保護色ヲ有セザルト一般ノミ懼ル  
可キノ甚シキモノト云フ可シ然ラバ則チ吾人ハ日本ノ人間トシテ日本ノ國體ヲ重シ日本ノ國權  
ヲ擴張シ以テ對外生存ヲ計ルヲ銘心セザル可ラズ若シ夫レ文明ノ發達極度ニ達シ萬國圖上五彩  
ヲ施スノ必用ナキノ日ハ則チ世界主義ノ行ハル、ノ日カ然レ此ノ如キハ果シテ地球歷史上人

間生活ノ時限内ニアル可キノ事ナルカ吾人日本社會ノ繼續者タルモノ須臾モ日本テフ觀念ヲ忘却ス可ラザルナリ

# 書窓瑣談

樹影書窓に印し、晴香鼻を撲つ。起て前庭に歩す、實に是れ一刻千金の良霄、櫻桃正に淡月  
 む笑ひ、花影時に輕風に搖ぎ、四隣人定まりて聲なく、轉た人をして無限の感想を起さし  
 む。去つて二三尋常平凡の陳言を記し、以て自ら警む。

壬辰四日

花影清眠子

中央の道は最も確かなる道なり、然れども人は常々兩極端に奔るの傾向あるを奈何せむ。所謂大  
 中至正の道を蹈むもの、世ろの人あらん、唯だ余の迂にして大觀の明なき、未だ多く之を見ざる  
 を憾む耳。

語に曰く、心の堅硬なるものは、軀軀また堅硬なりと、軀育豈に忽にすべけんや、然れども朝に夕  
 に、之に耽り、筆硯を投じ、書卷を擲ち、傍輩を凌ぎ、客氣に乘じ、壯言放語以て快を一時に取るも  
 の、是を果して嘉みすべき乎。体育を等閑に附し去り、書籍堆裏に埋り、顔色蒼白、形容枯槁し、時  
 ならざるに忽焉玉を懷ひて塵に歸るもの、是れ果して公益を來す乎。若し夫れ体育怠らず、學術  
 これ努め、以て他日軀軀健全、學識深遠、而もよく之を運用するの妙を得たるもの出ずんば、國光